



主な内容

特集 1~2
体罰等によらない子育て

トピックス 3~4
●火の用心!秋からは火災が多くなる季節です
●ふれあいフェスタ など

まちがいファイブ 5
情報ステーション 6~11
*最終ページは人口データと若松区の情報

特集 体罰等によらない子育て

つい怒鳴ったり、手が出てしまったり... どうすればいいんだろう



「何度言っても聞いてくれないから」

子どもに腹が立ったり、イライラしたりすることは、子育て中の保護者の多くが経験するもの。今号では、気持ちをうまく切り替えるための日頃の心がけや工夫できるポイントについて考えてみました。



「うるさいと無視したくなってしまう」



「仕事がうまくいなくてイライラしてつい...」



「子どもとどう接すればいいかわからなくなってしまう...」

体罰などをしてしまう背景

体罰などをしてしまう保護者自身が、次のような悩みや背景を抱えていることが考えられます。

子どもの年齢による特性・発達への焦りや不安

- 一生懸命子どもに向き合っているのに、いつまでも泣き止まない、言うことを聞かない
- 年齢に応じた発達・行動が見られない など

保護者の心配事や負担感、孤独感

- 自分の仕事や介護、家族関係などでストレスがたまっている
- 周囲に相談したり頼りにできる人がいない など

保護者のこれまでの体験や周りからの影響

- 自分自身もそうやって育ってきたから正しいと思っている
- 愛情があればたたいも理解してくれると言われてきた
- 子どもが言うことを聞かないのは、親が甘いからだと言われた など

特集は2ページに続きます

保護者自身の工夫ポイント

上手に力を抜いて、心の余裕を作りましょう

ひとたびイライラしてしまうと、なかなか冷静になれないのが実情ではないでしょうか。そこで、そもそもイライラしないための工夫を考えてみませんか。

保育所では、子どものペースに合わせた生活リズムを大切にしながら、心と体の安定を図っています。安定した生活リズムがつくられてくると、子どもはおおよその生活の流れを見通せるようになり、期待や予測をもって行動しようとしてします。たとえば昨日は2時間ゲームできたのに、今日が1時間で「ダメ!」では、子どもも戸惑います。家庭でも「ゲームは1時間まで」など、日々の行動パターンを決めたほうが、子どもなりに納得がいくのかもしれませんが、子ども中心の生活リズムの中でも、上手に自分の時間をつくりたいものですね。

「頑張りすぎない」ことも大切です。子育てに熱心な人ほど、周囲と比較して「このままじゃいけない」と思い込み、イライラしてしまいがち。「テストで一番だった」など「できる」「できない」ではなく、「すごいね」「がんばったね」など、子どもの行動を認めて、褒めてあげてほしいと思います。ありのままを受け止めて、認めてもらえると子どもは幸せです。

東篠崎保育所 新山所長

